

第4回 日本食文化の世界無形文化遺産登録に向けた検討会 議事概要

○日 時：平成23年11月4日（金）15：00～16：29

○場 所：農林水産省第2特別会議室

○出席者：熊倉会長、佐竹委員、服部委員、藤野委員、村田委員、増田委員、山縣委員、山口委員、宮田アドバイザー、京都府、全国農業協同組合中央会
森本農林水産大臣政務官
外務省：福嶋国際文化協力室首席事務官
文化庁：南文化財国際協力室長
厚生労働省：奥田生活衛生課長補佐
農林水産省：大澤政策課長、出倉食ビジョン推進室長、
櫻庭食料産業局審議官、池淵食品小売サービス課長
経済産業省：大原地域経済産業政策課企画官
観光庁：新垣観光資源課長

（資料に基づき、説明後）

<提案書について>

○熊倉座長

- ・ 韓国の宮中料理が「一部の人のもの」というような理由で登録見送りとなる見通しとなったことから、「会席料理を中心とした…」という題名に懸念。
- ・ むしろ日本の食文化全体にスポットが当たるような記載にし、会席料理はそのうちフォーマルなものという位置づけにしてはどうか。
- ・ 例えば、英語の題名を WASHOKU; Traditional Dietary Cultures of the Japanese としてはどうか。

○村田委員

- ・ 熊倉座長の発言に同意。審査に通りやすいものにすることが重要。会席料理にばかり偏ってしまうと全国的なものから離れてしまう可能性。
- ・ 和食と日本料理の関係はどのように考えているのか。（熊倉座長：洋に対する和であり、日本料理より広いものをイメージ。）

○山口委員

- ・ 熊倉座長のご発言に同意。ただ、和食という言葉が英語になったとき、我々が感じる語感と同じものが英語で伝わるか、を懸念。

○服部委員

- ・ 通りやすい申請書とすることが重要。
- ・ フランスの提案書では、料理以外にもマナーや味覚教育などのことも記載されている。このことから、食育は外せないためしっかりと入れてほしい。

○宮田アドバイザー

- ・ 英語で Nihon-Ryour i というのは語感として難しい。日本の言語である WASHOKU という書き方をすると言うのは申請のテクニックとしてあり得る。
- ・ 提案書 1 のカテゴリについて、あまりチェックする項目を増やしすぎるとネガティブチェックの対象になる恐れもあるので慎重に考える必要。(熊倉座長：伝統工芸というのは入ると思うが、項目については要検討。)

○藤野委員

- ・ 洋食に対する和食というのであれば、イメージに合う。会席料理についても、日本全国で広く行われているという説明をつければ、会席料理が日本食文化の凝縮されたもの、と位置づけられると思う。

○佐竹委員

- ・ 伝統的な食文化というものを前面に出すのはよいと思う。WASHOKU もおもしろいのではないか。

○増田委員

- ・ WASHOKU は聞きやすい言葉でいいかもしれない。また、洋食に対する和食というのもわかりやすい概念ではないか。
- ・ 酒と日本料理は切っても切れない仲にある。

○山縣委員

- ・ 寿司は元来腐りやすい魚というものを酢や技術で健康によいものとした。環境との相互作用のなかで生まれてきたものである。(熊倉座長：日本がいかにかに生魚を食べる技術を身につけてきたか、このような技術についての記述も必要だろう。)

○服部委員

- ・ 日本人の長寿について記載したらどうか。健康面においては、和食が優れている。いくつかある記載項目のどこかに記載してほしい。

○宮田アドバイザー

- ・ 地中海料理も健康面を記述。健康面を記載するのも戦略としてはあると思う。ただし、第 1 に押すと二番煎じととられる恐れがあり、注意が必要。

○佐竹委員

- ・ 日本食文化を特徴付ける 4 つの要素のうち年中行事等との結びつきを最初に記載されたが、フランスの現地調査の際にも年中行事等との結びつきと発酵食品というのが日本の大きな特徴と言われた。

○熊倉座長

- ・ 今回の申請は、日本の食文化が国内で危機的状況にあるということを自覚し文化として認め直すことにより、国民の総意とするというフランスの申請に倣ったもの。最近、松浦前ユネスコ事務局長が、雑誌のインタビューの中でフランス型は特殊との御意見を述べられた。こういった関係者の話も参考にしつつも、フランス型で登録に向けて進めて行きたいというのが我々の考え方だ、と確認したい。

○宮田アドバイザー

- ・ ユネスコの無形文化遺産をめぐる状況も厳しい状況。当選確実と思われていた韓国が情報照会となったことも予想外。一方で 2010 年の 3 案件（フランス、地中海、メキシコ）が例外とされてしまうのは問題だと、政府間委員会で主張する必要。

○山口委員

- ・ 4 つの特徴が必ずしも提案書の中で具体化されていないのではないか。例えば、うま味や米などについて載っていない。
- ・ 定義集を作ることが大事。今後ビジュアル資料を作る際にも、定義集の定義をはっきりと反映したものを作るよう、制作会社に入れ込んで行かなくてはならない。

<今後の推進について>

○全国農業協同組合中央会

- ・ 無形遺産登録は食材を供給する生産者としても価値のある取組。地域で食を支えている団体として主体的に取り組みたい。組合員に対しても広く伝えて行きたい。

○京都府

- ・ 食文化の登録は重要。韓国の事例もあり、より戦略的な提案書にしてほしい。今後は保護が大事と考えられ、京都としても高等教育機関を検討している。また、パリでのレセプションや国文祭などでの PR もしている。今後とも協力願いたい。

<その他>

○村田委員

- ・ 今後の修正は座長に一任していいのではないか。

○村田委員

- ・ 国民の意識向上のため、総理から何か発言してもらってはどうか

○熊倉座長

- ・ 今後、文化審議会での議論などの関門を通して提案書が決まる。専門家の意見やユネスコの関係者の意見なども参考に、充実したものになりたい。